

華頂短期大学で幼児教育・保育を学ぶ 3つのポイント

その2 つくる楽しさを伝えるための実践教育

ものづくりが好きになる！華頂の造形教育

子どもたちと一緒にものづくりをするのも、先生のお仕事。「絵を描いたり、工作は苦手…」という

先輩もたくさんいます。しかし、華頂の造形教育は、幼い頃を思い出しながら、「楽しみながら授業に参加する」

ことがモットー！華頂短期大学では、幼稚園・保育所の先生として子どもたちを保育する時に必要な

「ひきだし」を楽しみながら学んでいきます。

今回は、図画工作の授業を指導されている先生にお話を伺いました！

華頂短期大学 幼児教育学科

山部 泰司 教授

Q. 絵を描いたり工作とか下手です…大丈夫ですか？

A. 授業では、上手・下手よりも「楽しく描く」ことを大切にしています

造形教育は、「上手・下手」よりも「楽しく取り組む」ことを大切にしています。授業では、マーブリングやスライムづくり、野菜を使ったスタンプあそびやなど、苦手な人でも楽しく取り組める課題を用意しています。

子どもたちは、描いたりつくったりする活動が大好きです。上手に絵を描いてくれる先生よりも、描いたり作ったりする楽しい「ひきだし」をたくさん持っている先生のことが子どもたちは大好きです。そのような先生の方が、絵が上手な先生よりも子どもたちにとっては素晴らしい先生かもしれません。



Q. 「子どもデパート」って何ですか？

A. 本学学園祭「華頂祭」で

子どもたちを手作りのゲームなどでおもてなしします

「子どもデパート」は、チーム一丸となって、子どもたちが笑顔になってくれることを想像しながらゲームやお店を作り上げるとても楽しい活動です。子どもたちに楽しんでもらうために、授業の中で色々なアイデアを出し合います。当日のお店屋さんも自分たちで行います。自分たちが作った手作りのおもちゃで夢中になって遊ぶ子どもたちの様子を見たり、子どもたちとの関わりの中で様々な発見があったりと、みなさんの保育力（＝子どもを育てる力）をつける活動です。保育者が自ら子どもたちのために作る教材の大切さに気付いていく貴重な取り組みです。



Q. 幼児教育学科の学生は、全員絵本をつくると聞きましたが…？

A. 授業の一環で、絵本制作に取り組みます

絵本に親しむ幼児教育・保育は、本学科の大きなテーマになっています。

「未来の子ども絵本大賞」では、市販の絵本ではなく、本学学生のほかに、保育者・保護者・また保育を目指す高校生などが、子どもとのかかわりや子どもの「こころ」にふれたところから生まれてくる絵本の大切さについて考えています。たとえ上手な絵でなくても、皆さんの思いは確実に子どもたちに伝わります。

ぜひ一度、自分のことばと自分の絵で世界に1つしかない絵本を作ってみてください。

Pick UP!

華頂の造形教育では、子どもたちが楽しめる

たくさんの「ひきだし」を実践的に身につけていきます

子どもたちは、日々の生活の中で、歌ったり描いたり身体で表現したりします。絵は、子どもの心の窓（鏡）とも言われ、幼児理解の大切な学びの一つ（きっかけ）です。子どもの絵のすばらしさに気付く力も大切。工作が得意な子どもも苦手な子どもも楽しく活動するためには、まずはみなさん自身が楽しむこと！手をつかったスタンプあそびやスライムづくり…授業では、現場で役立つ様々なポイントやアイデアを学んでいきます。

